

京都創生PR事業「京あるき in 東京 2015」外務省との共催レセプション及び 京都市外資系企業誘致セミナー開催について

◆外務省との共催レセプション

2月3日（火）、京都市は外務省と共催で、外務省飯倉公館において駐日各国大使館、駐日外国商工会議所関係者等の皆様を招いたレセプションを開催しました。

京都市では、京都にゆかりのある企業や大学、団体が、京都の歴史、景観、文化芸術、伝統産業、観光など、多彩で奥深い京都の魅力を首都圏で発信する「京あるき in 東京 2015」を本年2月の約一箇月間にわたり実施しており、本レセプションはその海外発信事業として執り行いました。

レセプション会場は、100の国・地域の大使等約240名のご参加があり、大盛況でした。冒頭、岸田文雄外務大臣から、邦人人質事件に対する各国からの深い哀悼の意と各国の連帯に謝意を示されつつ、「地方自治体は外交の重要なパートナー。京都や日本の魅力を堪能していただきたい。」とご挨拶いただきました。門川大作京都市長から、文化経済交流・観光の相互理解が深まれば世界平和にもつながると述べたうえ、「京都にはあらゆる魅力が集積している。ぜひお越しを。」と呼び掛けました。



京都ならではの日本の伝統・文化の神髄を紹介すべく、京都の企業・団体のご協力により、和食、日本酒、和菓子、お茶、お香、風呂敷などのブースを設置しました。



このほかにも、花街文化をPRする特設コーナーや京都の名産品である京都肉・京野菜の試食、お猪口等の伝統産業、京都観光、留学生誘致などの本市施策をPRするブースを設置しました。



◆京都市外資系企業誘致セミナー

レセプションに先立ち、外資系企業等を対象に京都の企業立地環境を紹介するためのセミナーを開催しました。

セミナーでは、市への立地に関心を持つ外資系企業のほか、各国の大使館や商工会議所などの皆様54名に向けて、京都大学を中心とする産学連携体制などをアピールしました。

本市が外資系企業の誘致のために都内でセミナーを開くのは、2013年に続き2回目です。門川大作京都市長は挨拶で、陶磁器の伝統技術を生かした最先端のセラミック製品など、伝統産業の「ものづくり」の力が先端産業へつながっている事例を紹介し、「ものづくりや観光の都市として可能性を秘めている。京都に新たな投資をしてほしい。」と呼び掛けました。



◆おわりに

外務省では、外務省別館である飯倉公館を活用してプロモーションを実施することにより、自治体の国際交流活動を支援するという地方創生事業を実施されます。今回は第一弾ということで、企画段階から当日の運営に至るまで、多くの皆様のご協力・ご支援を賜りました。関係者の皆さまに深く感謝申し上げます。